

## エゾミツボシキリガ

幼虫は春に様々な広葉樹の葉を食べる。最大長40mm。ハルニレでは若い実を食い荒らすことがある。



1. 若い幼虫，体長13mm。1990/6/4.



2. 老齡幼虫，体長18mm。1990/6/15.



3. 終齡幼虫，体長35mm。1990/6/25。2を飼育.



4. 雌成虫，体長25mm。2を飼育.

1～4. 新得町，ハルニレの若い実.

【学名】 *Epsila transversa*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , ヤガ科 (Noctuidae)

【分布】 北海道，本州.

### 【特徴】

幼虫は終齡で体長30～45mm。色彩は成長にともない変化する。若い幼虫は独特な色彩で識別は容易。老齡は頭部と尾端背面が体より明るい点でテンスジキリガに似るが，気門線（側面下方の線）が白く明瞭で，中胸，後胸，腹部第2と8節で太まる。終齡は側面の下の方に白い斑点がある。

### 【生態】

ポプラ，シラカンバ，コナラ，ハルニレ，ズミなど様々な広葉樹につく。

成虫は年1化，9～10月および4～5月に出現，成虫越冬といわれている。北海道の低山地では6月上旬に中～終齡幼虫が採

れ、飼育したところ6月下旬～7月上旬に土中で繭となり、9月下旬に成虫になった。中齢幼虫は樹上で若い実を綴って巣を作っていたが、老齢幼虫は樹上にみられなかった。

#### 【被害】

1990～92年十勝新得町でハルニレの実が豊作になったが、昆虫による食害率は毎年90%以上に達した。エゾミツボシキリガは1990年にきわめて個体数が多く、実の食害の主要種と考えられた。

#### 【文献】

1958. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（下）:I-V, 1-303, pls 65-136. 保育社, 大阪.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1:1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

1987. 杉敏郎, 編. 日本産蛾類生態図鑑: 1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

\*1992. 清和研二. ハルニレの種子散布と稚苗の出現. 日本林学会北海道支部論文集, 40: 77-79.

\*1996. 原秀穂. ハルニレの種子の害虫. 光珠内季報, 101: 4-7. (被害, 生態, 形態)

\*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾミツボシキリガ yaga/ezomitu/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992/12/28-2001/4/9.  
2yochu.jpg, 1yochu1.jpg, 1yochu2.jpg, 1seichu.jpg  
「写真1～4」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1990.